

【実践報告】

リフレッシュ・キャンプが被災地児童の情動知能に及ぼす影響

The influence about emotional intelligence of the disaster area's children in camping

庄子 佳吾 SHOJI Keigo
国立花山青少年自然の家

阿部 広之 ABE Hiroyuki
国立花山青少年自然の家

キーワード

情動知能、震災復興支援事業、リフレッシュ・キャンプ

要旨

国立青少年教育振興機構では平成 23 年度に、福島県の東日本大震災の被災後の子供たちを対象に、心身の震災によるストレスを軽減し、心身の健康、リフレッシュを図るために、外遊びや自然体験活動を中心としたキャンプ「リフレッシュ・キャンプ」を実施し、その報告を行った。国立花山青少年自然の家では、平成 24 年度以降も継続し、宮城県沿岸部地域に在住する児童を対象に「リフレッシュ・キャンプ はなやまんまる☆きゃんぷ」として実施している。罹災による日常での活動範囲や機会への制限が子供の心身に影響を及ぼしている可能性が高いと考えられ、当所ではその背景を踏まえ、表層のみではわからない子供の心の動き、なかでも情動知能に焦点を当てた調査を実施し、現状の把握ならびに心理面への影響の検証を行った。その結果、「リフレッシュ・キャンプ」を経験することによって参加者の情動知能に影響を及ぼす可能性が示唆された。

I. 緒言

国立青少年教育振興機構では平成 23 年度に、福島県の東日本大震災の被災後の子供たちを対象に、心身の震災によるストレスを軽減し、心身の健康、リフレッシュを図るために、外遊びや自然体験活動を中心としたキャンプ「リフレッシュ・キャンプ」を実施した。そして、平成 23 年 7 月 21 日から 8 月 31 日の期間に実施した「リフレッシュ・キャンプ」の参加者を対象に、心身への影響等の実態と参加したことによる変容の調査を行い、「キャンプ参加後に心が安定、意欲が向上」といった結果を発表した⁽¹⁾。

国立花山青少年自然の家では、平成 24 年度以降も継続し、宮城県沿岸部地域に在住する児童を対象に「リフレッシュ・キャンプ はなやまんまる☆きゃんぷ」として、震災によるストレスを軽減し、心身の健康、リフレッシュを図るために、外遊びや自然体験活動を中心としたキャンププログラムを展開している。

宮城県沿岸部は直接罹災し、住居や学校を失った子供も多く、仮設住宅に居住する子供や仮設校舎として別の学校内で過ごしている子供の申込みも数多く見られる。こうした環

境より日常での活動範囲や機会に制限がかかり、それが心身に影響を及ぼしている可能性が高いと考えられる。

身体への影響としては、肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率が考えられる。宮城県の肥満傾向児の出現率は、男子の幼稚園を除いて全国値より高くなっている。また、全国順位でみた場合、男子の中学校1年生と女子の幼稚園が全国1位となっている⁽²⁾。

その一方、心の影響としては、「東日本大震災によって「家や家族・友人を失う」、「津波の被害を目撃する」などの強い恐怖や衝撃を受けた場合、不安や不眠などのストレス症状が現れることが多い。こうした反応は誰にでも起こり得ることであり、通常は時間の経過とともに薄らいでいくものであるが、場合によっては長引き、生活に支障を来すなどしてその後の成長や発達に大きな障害となることもある。」⁽³⁾とある。阪神・淡路大震災の前例からも、地震や津波等による自然災害、事故や犯罪による人為災害は、被災した子供たちの身体だけでなく心にも大きな損傷を与えることから、心のケア⁽⁴⁾が必要とされており、心のケアについては、初期対応にとどまらず中長期的な対応も視野に入れた取組みの必要性が指摘されている。また、被災により受けた心の傷は、自身には自覚されにくいといわれ⁽⁵⁾、「子供たちがどれだけ困っているかは、本当には見えにくい」ことも指摘されている⁽⁶⁾。

上記の背景を踏まえ、当所では事業方針として重点項目に「震災復興支援の充実」を据え、被災地児童を対象にした事業を継続的かつ定期的に実施している。そして、その参加者を対象に表層のみではわからない子供の心の動き、なかでも情動知能⁽⁷⁾⁽⁸⁾に焦点を当てた調査を実施し、現状の把握ならびに心理面への影響の検証を行った。

本稿では「リフレッシュ・キャンプ はなやまんまる☆きゃんぷ」より、平成25年度全4回の参加者を対象に実施した調査結果について報告を行う。

II. 方法

1. 調査対象及び事業内容

「リフレッシュ・キャンプ はなやまんまる☆きゃんぷ」に参加した児童生徒207名（男子103名、女子104名、年齢8歳から13歳、小学校3年生から中学校2年生）を対象とした。調査対象事業名、実施時期及び参加者数は下記のとおりである。

- ① はなやまんまる☆きゃんぷ＜スプリング＞（以下、スプリング）、平成25年5月3日～5月6日（3泊4日）、48名（男子24名、女子24名、年齢9歳から13歳、小学校4年生から中学校2年生）
- ② はなやまんまる☆きゃんぷ＜サマー＞（以下、サマー）、平成25年7月20日～7月24日（4泊5日）、67名（男子46名、女子21名、年齢8歳から12歳、小学校3年生から小学校6年生）
- ③ はなやまんまる☆きゃんぷ＜オータム＞（以下、オータム）、平成25年9月21日～9月23日（2泊3日）、36名（男子15名、女子21名、年齢9歳から11歳、小学校4年生から小学校6年生）
- ④ はなやまんまる☆きゃんぷ＜ウインター＞（以下、ウインター）、平成26年2月1日～2月2日（1泊2日）、56名（男子18名、女子38名、年齢10歳から12歳、小学校5年生から小学校6年生）

調査は各事業ともに事前（以下、PRE）、事後（以下、POST）の計2回に質問紙法で測定を実施し、データ処理については回答信頼性傾向の判断基準に満たないものと回答に不備のあるものを除いた123名（男子50名、女子73名、年齢8歳から13歳、小学校3年生から中学校2年生）を有効回答者とした。

各事業の主なプログラムを以下に示した。（表1、2、3、4参照）本事業は、当所が立地する栗駒山麓の四季折々の雄大な自然環境の中での体験活動を軸に据えながらも、新たな試みとして下記の取り組みを行った。

- ① 事前に班分けをせず、活動の中で交流を深めた仲間と活動ができる仕掛け
- ② 周辺地域の観光資源などを活用したタウンオリエンテーリングの導入
- ③ しおりを廃止し、ホワイトボードによる伝言や指令書による次の行動指示など、“連絡”についての工夫
- ④ 複数回、野外炊事の機会を設け、後半は指導者が一切誘導・指導しないような仕掛け

また、上記以外にも季節感を重視したクラフト活動、自由な感性を持って取り組むことができるランドアート⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾等を実施した。

表1 はなやまんまる☆きゃんぷくスプリング>の主なプログラム

	5月3日(金)	5月4日(土)	5月5日(日)	5月6日(月)
7:00	参加者送迎 ・石巻方面 ・気仙沼・南三陸町方面	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 出発準備 8:30 ハイキング(徒歩) ・自然の家～花山地区	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 荷物整理・部屋の片付け 8:30 活動準備 9:00 麓のぼりクラフト ・橋々でオリジナル標のぼり作り ・全員で標のぼり作り	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 荷物整理・部屋の片付け 8:30 退所点検・荷物移動 9:00 まとめの活動 ・ふりかえりムービー鑑賞 ・アンケート記入 ・写真配布
11:30	参加者集合・受付 昼食(食堂)	10:30 タウン・オリエンテーリング・花山 ・テーマ「端午の節句を愉しむ」 ・昼食(弁当・各班ごと) ・各ポイントにあるミッションをクリアする ＜注意事項＞ ※交通量が多い ※観光客が多い ※迷惑をかけない ※トイレの場所 ※水辺には近づかない 集合 15:30 16:00 バス出発 16:30 休憩・自由時間 17:30 夕食(食堂)	12:00 昼食(食堂) 13:00 こどもの日パーティを企画しよう！(野外炊飯) 「子供の大好きメニューをみんなで作ろう」 ＜メニュー＞ ・ピザ ・ラーメン ・チキン寿司 ・焼肉 ・ハンバーガー ・ケーキ盛り付け(ボランティア)	12:00 昼食(食堂) 13:00 閉講式 13:30 参加者送迎 ・石巻方面 ・気仙沼・南三陸町方面
13:00	開講式 オリエンテーション 仲間づくり野外炊飯(おしゃべりなカレー作り) ＜注意事項＞ ※単独行動に注意 ※安全の確保 ※健康管理の徹底	15:30 集合 16:00 バス出発 16:30 休憩・自由時間 17:30 夕食(食堂)	18:00 入浴 18:30 自由時間 19:30 タウン・オリエンテーリング結果発表 事務連絡(退所準備) 自由時間	
18:30	入浴	18:30 自由時間 入浴	18:00 入浴 18:30 自由時間 19:30 タウン・オリエンテーリング結果発表 事務連絡(退所準備) 自由時間	
19:30	グループ作り 活動内容説明			
21:00	自由時間			
21:30	就寝準備	21:30 就寝準備	21:30 就寝準備	
22:00	就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	

表2 はなやまんまる☆きゃんぷくサマー>の主なプログラム

	7月20日(土)	7月21日(日)	7月22日(月)	7月23日(火)	7月24日(水)
6:30	参加者送迎 ・石巻方面 ・気仙沼・南三陸町方面	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 出発準備 9:00 沢登り(Aグループ)出発 9:30 沢登り(Bグループ)出発 ・自然の家～沢下流部 ・2グループ編成	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 出発準備 9:00 「涼しい夏料理」野外炊飯 ・稲刈り ・フルーツポンチ	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 出発準備 9:00 沢登り出発 ・自然の家～沢上流部 ・3グループ編成	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 荷物整理・部屋の片付け 8:30 退所点検・荷物移動 9:00 まとめの活動 ・ふりかえりムービー鑑賞 ・アンケート記入 ・写真配布
11:00	参加者集合・受付 昼食(食堂)	11:30 昼食(弁当・到着したグループごと) 12:30 場所・着替え(Aグループ) 13:00 場所・着替え(Bグループ)	14:00 夏の涼しいクラフト ①風鈴の紐付け ②サワースティック ③2グループ編成	11:30 昼食(弁当) 14:00 場所・着替え 休憩・自由時間 16:30 キャンプファイヤー準備	12:00 昼食(食堂) 13:00 閉講式 13:30 参加者送迎 ・石巻方面 ・気仙沼・南三陸町方面
13:00	開講式 活動準備	14:30 選抜プログラム ①ランドアート ②風車 ③水性ペンアート ・1プログラム1時間半 ・子供は2つ選抜 17:30 夕食(食堂) 入浴	17:30 夕食(食堂) 入浴	17:30 夕食(食堂) 入浴	
14:30	いいただき夏！野外炊飯 ・びっくり夏野菜カレー ・ハンバーグ ・ヨーグルトポンチ ＜注意事項＞ ※基本的な道具の使い方・調理方法 ※安全・衛生の確保 ※健康管理の徹底 入浴	19:30 自由時間	19:30 自由参加プログラム ①満天の星空ツアー☆ ②夕涼みナイトハイキング ③自由時間	19:30 ファンタスティックキャンプファイヤー ・終了後、自由時間	
18:30	入浴				
19:30	活動内容説明				
20:30	自由時間				
21:30	就寝準備	21:30 就寝準備	21:30 就寝準備	21:30 就寝準備	
22:00	就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	

表3 はなやまんまる☆きゅんぷくオータム＞の主なプログラム

9月21日(土)		9月22日(日)		9月23日(月)	
8:00	参加者送迎 ・岩沼・亶理・山元方面	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 出発準備 8:30 ハイキング(徒歩) ・自然の宝～花山地区	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 荷物整理・部屋の片付け 8:30 送迎点検・荷物移動 9:00 花山ランドアート ・所周辺の自然を活かした造形	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 荷物整理・部屋の片付け 8:30 送迎点検・荷物移動 9:00 花山ランドアート ・所周辺の自然を活かした造形	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 荷物整理・部屋の片付け 8:30 送迎点検・荷物移動 9:00 花山ランドアート ・所周辺の自然を活かした造形
11:30	参加者集合・受付	10:30 タウン・オリエンテーリング在花山 ・テーマ「秋の花山タウン探検」 ・昼食(弁当・各店ごと) ・各ポイントにあるミッションをクリアする ＜注意事項＞ ※交通量が多い ※観光客が多い ※迷惑をけない ※トイレの場所 ※水辺には近づかない	10:30 まとめの活動・タウン・オリエンテーリング結果発表 ・ふりかえりムービー鑑賞 ・アンケート記入・写真配布 12:00 昼食(食堂)	10:30 まとめの活動・タウン・オリエンテーリング結果発表 ・ふりかえりムービー鑑賞 ・アンケート記入・写真配布 12:00 昼食(食堂)	10:30 まとめの活動・タウン・オリエンテーリング結果発表 ・ふりかえりムービー鑑賞 ・アンケート記入・写真配布 12:00 昼食(食堂)
13:00	開講式	※交通量が多い ※観光客が多い ※迷惑をけない ※トイレの場所 ※水辺には近づかない	13:00 開講式	13:00 開講式	13:00 開講式
13:30	オリエンテーション	※交通量が多い ※観光客が多い ※迷惑をけない ※トイレの場所 ※水辺には近づかない	13:30 参加者送迎 ・岩沼・亶理・山元方面	13:30 参加者送迎 ・岩沼・亶理・山元方面	13:30 参加者送迎 ・岩沼・亶理・山元方面
14:00	「野外炊飯」(秋を食べよう) ・秋野菜キーマカレー ・ナン ＜注意事項＞ ※単独行動に注意 ※安全の確保 ※健康管理の徹底	15:30 集合 16:00 バス出発 16:30 休憩・自由時間 17:30 夕食(食堂) 入浴	15:30 集合 16:00 バス出発 16:30 休憩・自由時間 17:30 夕食(食堂) 入浴	15:30 集合 16:00 バス出発 16:30 休憩・自由時間 17:30 夕食(食堂) 入浴	15:30 集合 16:00 バス出発 16:30 休憩・自由時間 17:30 夕食(食堂) 入浴
18:30	入浴	19:00 事務連絡(退所準備) 自由時間	19:00 事務連絡(退所準備) 自由時間	19:00 事務連絡(退所準備) 自由時間	19:00 事務連絡(退所準備) 自由時間
19:30	グループ作り 活動内容説明	21:30 就寝準備	21:30 就寝準備	21:30 就寝準備	21:30 就寝準備
21:00	自由時間	22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝

表4 はなやまんまる☆きゅんぷくウインター＞の主なプログラム

2月1日(土)		2月2日(日)	
7:00	参加者送迎 ・石巻方面 ・気仙沼・南三陸町方面 ・岩沼・亶理・山元方面	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 荷物整理・部屋の片付け 8:30 送迎点検・荷物移動 9:00 まとめの活動 ・タイムマシン☆未来レター ・豆まき大会 ・アンケート記入	6:30 起床・着替え・清掃 7:00 朝のつどい・健康チェック 7:30 朝食(食堂) 8:00 荷物整理・部屋の片付け 8:30 送迎点検・荷物移動 9:00 まとめの活動 ・タイムマシン☆未来レター ・豆まき大会 ・アンケート記入
11:30	参加者集合・受付	12:00 昼食(食堂)	12:00 昼食(食堂)
12:00	昼食(食堂)	13:00 開講式	13:00 開講式
13:00	開講式・オリエンテーション	13:30 参加者送迎	13:30 参加者送迎
13:30	活動準備	・石巻方面 ・気仙沼・南三陸町方面 ・岩沼・亶理・山元方面	・石巻方面 ・気仙沼・南三陸町方面 ・岩沼・亶理・山元方面
14:00	そり遊び・スノーチューブ滑り ＜注意事項＞ ※範囲を指定 ※滑走コースについての説明		
16:30	着替え・休憩		
17:00	ベッドメイキング説明		
17:30	夕食(食堂)		
18:30	入浴		
19:00	クラフト「鬼の面づくり」 全体写真撮影		
21:00	自由時間		
21:30	就寝準備		
22:00	就寝		

安全管理の面から危険度の高い沢活動等を含むサマーを除き、事前に班分けは行わなかった。また、日程が短いウインターを除き、夜間には意図的に自由時間を設け、自主的に活動するよう促した。全体としての共通点としては、動的な活動での導入と展開、静的な活動でのまとめと一連の流れを作ること、活動相互のつながりを持たせることを念頭にプログラムを組み立てた。

2. 調査・分析方法

本稿では、皆川ら⁽¹¹⁾が開発した児童用情動知能尺度(EQSC)を用いた調査を実施した。児童用情動知能尺度(EQSC)とは、情動知能指数(EQ)⁽¹²⁾を評価するために標準化の手続きを経て一般に市販された心理検査である情動知能尺度(EQS)⁽¹³⁾を、皆川らが小学生の生活場面に照らして吟味・改訂して作成し、信頼性(内的整合性、再検査信頼性)および妥当性(因子的妥当性、構成概念的妥当性)をもつ尺度として立証したものである。

この児童用情動知能尺度(EQSC)は、「自己対応(intrapersonal)」、「対人対応(interpersonal)」、「状況対応(situational)」の3領域12下位因子から成り、各下位因子は、3つの質問項目によって構成されており、合計38項目から成っている(そのうち2項目はチェック項目)(表5参照)。質問項目ごとに5段階評価で回答を求めるもので、評価は、それぞれ「まったくあてはまらない」(0点)から「非常によくあてはまる」(4点)の5段階で得点化し、個人の「情動知能」得点の合計はチェック項目を除き、0～144点

表5 児童用情動知能尺度(EQSC)計38項目(36項目+チェック2項目)

領域	対応因子	下位因子	項目文
自己対応	自己洞察	1. 自己洞察	1. 自分が思っていることや感じていることがいつでもわかる
			2. 自分の気持ちが、変化するのがわかる
			3. 今の自分の気持ちを言葉で表すことができる
	自己動機づけ	2. 自己動機づけ	4. 自分でやろうと思ってやり始めたことは、続けていきたい
			5. 一度やり始めたことは、最後までやり通したい
			6. すぐにできなくても、大切なことは、やり続けるようにしている
	自己コントロール	3. 目標追求	7. 自分でやると決めたことは、やりとげるようにしている
			8. やると決めたことを、すぐにやめてしまうのはよくないことだと思う
			9. 目標のためならば、どんなに大変でも、やりぬく気持ちでいる
		4. 自制心	10. 自分の気持ちだけでなく、場面を考えて行動している
			11. 休み時間と授業時間との気持ちの切りかえができる
			12. いやなことがあっても、友達にやつあたりしない
対人対応	共感性	5. 共感性	13. 友達が喜ぶことをしてあげたくなる
			14. どうすれば友達に喜んでもらえるかを考えたい
			15. 困っている友達がいたら、どうしたのか聞いてあげたいと思う
	愛他心	6. 愛他心	16. 友達が元気がないときには、はげましてあげたいと思う
			17. 友達が嫌がることは言わない
			18. 困っている人を見ると、何とかしてあげたいと思う
	対人コントロール	7. 協力	19. だれにでも、進んで手を貸してあげられる
			20. みんなのためなら、いやなことでもやろうと思う
			21. 同じ友達だけではなく、いろいろな友達と遊んでいる
		8. 人材活用力	22. 友達に手伝いをたのむことができる
			23. けんかを止めたり、仲直りをさせたりしたことがある
			24. 初めて会った人も、すぐに友達になる
状況対応	状況洞察	9. 気配り	25. その場のふんいきをこわさないように気をつけている
			26. みんなで何かを決めるとき、みんなの意見をきちんと聞いて決めている
			27. 朝の会、帰りの会などの司会をテキパキとやることができる
		10. 楽天主義	28. 何かを始めるときには、うまくいくだろうと思う
			29. 失敗することを考えるより、まずやってみようと思う
			30. 今日うまくいかないことも、明日になればうまくいきそうだと思う
	リーダーシップ	11. リーダーシップ	31. リーダーとして、みんなをまとめていくことが得意である
			32. 自分が見つけた良い方法を、みんなにすすめることができる
			33. みんなで相談するときには、まとめ役をすることが多い
	状況コントロール	12. 状況コントロール	34. 班がえがあっても、すぐに班の人たちと仲良くできる
			35. 何か困ったことが起こっても、どうしたらよいのか考えられる
			36. その場面に合わせて、行動することができる

チェック項目①：友達を傷つけることだけは、したくない

チェック項目②：人の話は、しっかりと聞いた方がよいと思う

の範囲となる。採点は、下位因子ごとに項目の合計得点を算出し、さらに算出した下位因子得点を対応する因子ごとにまとめて、対応因子得点を算出した。最後に、対応因子得点を「自己対応」、「対人対応」、「状況対応」の3つの領域ごとに合計し、領域得点を算出した。採点・集計後、PRE-POST間の反復要因を独立変数、対応領域・合計得点、それに加えて、各領域の下位因子を従属変数とする一要因二水準の分散分析を行った。

すべての結果は、平均値±標準偏差で表した。有意水準は5%未満を有意とした。

なお、これまで児童用情動知能尺度(EQSC)を用いた研究で、小学生の平均値はほとんど公表されていないため、平均値との比較検討は行っていない。

Ⅲ. 結果

前述の反復要因を独立変数とした分散分析の結果を以下の表に示した(表6参照)。全体の対応領域、合計得点は、「自己対応」($F(1, 122)=34.58, p<.01$)、「対人対応」($F(1, 122)=8.58, p<.01$)、「状況対応」($F(1, 122)=19.20, p<.01$)、「合計得点」($F(1, 122)=28.00, p<.01$)で統計的に有意に高い値を示しており、得点が向上した。また、下位因子では「愛他心」を除き、統計的に有意に高い値を示しており、得点が向上している。

各事業の対応領域、合計得点は、スプリングが「自己対応」($F(1, 30)=5.08, p<.05$)、「対人対応」($F(1, 30)=7.82, p<.01$)、「状況対応」($F(1, 30)=8.25, p<.01$)、「合計得点」($F(1, 30)=10.72, p<.01$)、オータムが「自己対応」($F(1, 21)=4.76, p<.05$)、「状況対応」($F(1,$

表6 分散分析における児童用情動知能尺度(EQSC)得点の変化

対応領域 下位因子	全体			スプリング			サマー			オータム			ウインター		
	pre	pos	F(1,122)	pre	pos	F(1,30)	pre	pos	F(1,33)	pre	pos	F(1,21)	pre	pos	F(1,35)
自己対応得点	37.67 (7.40)	40.43 (7.08)	34.58 **	39.10 (7.12)	41.32 (6.62)	5.08 *	38.24 (7.74)	40.15 (7.63)	3.44 ns	35.09 (6.89)	37.50 (6.79)	4.76 *	37.50 (7.48)	41.72 (6.82)	43.01 **
自己洞察	8.75 (2.50)	9.87 (2.35)	38.30 **	9.03 (2.60)	9.84 (2.61)	4.42 *	8.91 (2.37)	10.09 (2.23)	8.68 **	7.86 (2.70)	8.82 (2.34)	5.20 *	8.89 (2.41)	10.33 (2.12)	29.58 **
自己動機づけ	9.88 (2.06)	10.43 (2.08)	11.34 **	10.45 (1.79)	11.00 (1.55)	3.26 ns	9.91 (2.07)	10.09 (2.56)	0.21 ns	9.18 (2.26)	10.18 (1.79)	5.37 *	9.78 (2.09)	10.42 (2.10)	8.82 **
目標追求	9.67 (2.16)	10.24 (1.98)	10.16 **	10.10 (1.97)	10.39 (1.86)	0.64 ns	9.62 (2.46)	10.21 (2.04)	3.12 ns	9.68 (2.01)	9.68 (2.01)	0.00 ns	9.33 (2.14)	10.50 (2.02)	17.68 **
自制心	9.38 (2.22)	9.89 (2.15)	12.11 **	9.52 (2.39)	10.10 (2.31)	4.51 *	9.79 (2.11)	9.76 (2.30)	0.01 ns	8.36 (2.50)	8.82 (2.17)	1.72 ns	9.50 (1.87)	10.47 (1.63)	30.56 **
対人対応得点	38.48 (7.84)	40.00 (7.66)	8.58 **	38.90 (7.69)	41.68 (6.40)	7.82 **	39.56 (7.94)	38.94 (8.04)	0.26 ns	35.95 (8.82)	37.23 (8.92)	1.41 ns	38.64 (7.21)	41.25 (7.11)	12.40 **
共感性	10.14 (2.11)	10.53 (2.15)	5.11 *	10.03 (2.06)	10.81 (1.58)	9.71 **	10.29 (2.04)	10.03 (2.56)	0.30 ns	9.45 (2.46)	10.27 (2.60)	6.03 *	10.50 (1.96)	10.92 (1.79)	4.31 *
愛他心	10.23 (2.02)	10.35 (2.02)	0.65 ns	10.10 (2.10)	10.52 (1.88)	1.79 ns	10.35 (2.16)	9.79 (2.29)	2.61 ns	9.95 (2.26)	10.00 (2.14)	0.02 ns	10.39 (1.71)	10.94 (1.64)	7.35 *
協力	9.10 (2.67)	9.50 (2.37)	4.38 *	9.42 (2.32)	10.13 (2.09)	3.59 ns	9.62 (2.53)	9.44 (2.39)	0.17 ns	8.55 (2.91)	8.59 (2.44)	0.01 ns	8.67 (2.91)	9.56 (2.44)	8.33 **
人材活用力	9.02 (2.68)	9.63 (2.36)	8.65 **	9.35 (2.80)	10.23 (2.16)	2.76 ns	9.29 (2.90)	9.68 (2.18)	1.30 ns	8.00 (2.65)	8.36 (2.65)	0.50 ns	9.08 (2.30)	9.83 (2.30)	5.26 *
状況対応得点	35.72 (9.52)	38.25 (8.77)	19.20 **	36.23 (10.13)	39.81 (7.71)	8.25 **	37.56 (8.99)	37.97 (8.27)	0.10 ns	31.82 (11.04)	34.68 (11.30)	5.06 *	35.92 (8.09)	39.36 (8.05)	20.57 **
気配り	9.37 (2.57)	9.84 (2.27)	8.37 **	9.06 (2.94)	9.77 (2.36)	3.34 ns	10.09 (2.22)	10.15 (2.06)	0.04 ns	8.68 (3.11)	8.68 (2.70)	0.00 ns	9.36 (2.06)	10.31 (1.89)	19.41 **
楽天主義	9.03 (2.62)	9.90 (2.43)	16.70 **	9.13 (2.68)	10.23 (2.20)	6.96 *	9.79 (2.43)	9.94 (2.42)	0.09 ns	8.18 (2.77)	9.32 (2.66)	5.03 *	8.75 (2.53)	9.94 (2.51)	16.70 **
リーダーシップ	8.06 (3.22)	8.68 (2.89)	9.89 **	8.71 (3.38)	9.16 (2.96)	1.42 ns	8.12 (3.28)	8.62 (2.72)	1.01 ns	6.82 (3.62)	7.77 (3.48)	7.66 *	8.19 (2.65)	8.89 (2.58)	4.91 *
状況コントロール	9.26 (2.48)	9.83 (2.57)	10.04 **	9.32 (2.53)	10.65 (1.91)	17.16 **	9.56 (2.41)	9.26 (2.97)	0.54 ns	8.14 (2.59)	8.91 (3.07)	3.84 ns	9.61 (2.32)	10.22 (2.07)	4.98 *
EQSC合計得点	111.87 (22.85)	118.68 (21.93)	28.00 **	114.23 (23.03)	122.81 (18.95)	10.72 **	115.35 (23.04)	117.06 (22.22)	0.31 ns	102.86 (24.52)	109.41 (25.84)	5.57 *	112.06 (20.90)	122.33 (20.40)	46.23 **

上段：平均値、下段：標準偏差

* $p<.05$ 、** $p<.01$

21)=5.06、 $p<.05$)、「合計得点」($F(1, 21)=5.57$ 、 $p<.05$)、ウインターが「自己対応」($F(1, 35)=43.01$ 、 $p<.01$)、「対人対応」($F(1, 35)=12.40$ 、 $p<.01$)、「状況対応」($F(1, 35)=20.57$ 、 $p<.01$)、「合計得点」($F(1, 35)=46.23$ 、 $p<.01$)で統計的に有意に高い値を示しており、得点が向上した。サマーでは有意な差は認められなかったが、「対人対応」を除き平均値が上昇した。また、下位因子では、有意確率は異なるものの、スプリング、ウインターではすべての平均値が上昇した。オータムも一部を除き、同様の傾向が見られた。しかし、サマーでは逆に「自制心」、「共感性」、「愛他心」、「協力」、「状況コントロール」において、有意な差は認められず、平均値が減少するといった結果が得られた。

Ⅳ. 考察

1. 全体における変容

本稿では、情動知能に着目し、「リフレッシュ・キャンプ」が被災地児童の心理面に与える影響の検証と今後の復興支援を考える判断材料とすることを目的として、調査を実施した。その結果、「リフレッシュ・キャンプ」を通じて被災地児童の情動知能に好影響を与えていることが示唆された。領域別に見ると、「自己の心の働きについて知り、行動を支え、効果的な行動をとる能力（自己対応）」、仲間との信頼関係を必要とする班行動等ストレスを伴う体験を無事克服した成功体験とその共有により、「共感をベースに、他者との人間関係を結び維持することのできる能力（対人対応）」、「自己を取り巻く、あるいは自己と他者を含む集団を取り巻く状況の変化に耐え、自己対応と対人対応を状況に分けて使い分ける統制力（状況対応）」のすべてにおいて統計的に有意に向上した。これより、「リフレッシュ・キャンプ」を経験することによって、震災により不安定だった心の動きや仮設住宅への移住等の環境要因から子供たちが抱えていたストレスから、程度の違いはあるが、リフレッシュを図れたと推察できる。特に「自己対応」、「状況対応」においては下位因子ともに平均値の上昇率が高く、自身や周囲の環境をありのまま受入れることができるようにな

っていると考えられる。「リフレッシュ・キャンプ」全体において、動的・静的な活動の中で負荷が高いものは比較的少なく、班ごとの活動や創造性を働かせたクラフト活動、夜間の自由時間など自由度が高かったことから、自らが考え、自主的に活動する機会が多かったことが「自己対応」の向上に好影響を与えたと推察できる。また、自主性を発揮するだけでなく、タウンオリエンテーリング等における課題解決や皆で生活環境を整えるといった自由時間の取り組みが普段とは異なる環境への適応につながり、それが適度なストレスや克服的な要素を内包していることで「状況対応」の向上に好影響を与えたとも考えられる。「対人対応」ならびにその下位因子の向上率が他と比較して比較的低くなっている要因としては、自主的な活動や自由な班編成が逆に親しい仲間以外とコミュニケーションをとる機会を少なくしていることが影響を与えている可能性があるため、個人、班のみならず、全体での活動や意図的に班を崩す活動を取り入れることで情動知能の向上により効果的であると予想される。

2. 各事業における変容

各事業の変容においては、スプリング、オータム、ウインターですべての平均値が上昇したが、その上昇率や有意確率から実施時期や居住地域の中でも異なる変容が見られると考えられる。また、最も平均年齢が低かったサマーにおいては、他とは異なり、平均値が減少するといったこと傾向が見られることから学年別の得点変化についても比較検討していく必要があるといえる。しかしながら、発達特性と学年の差異による相関の証明は困難であり、それを踏まえ罹災状況の程度や成人用の情動知能尺度（EQS）によっても男性より女性が高い値を示している傾向⁽¹³⁾が見られることから男女の発達段階と参加者の割合も結果の要因になったと考えられる。それに加え、サマーではプログラムにおいて全体での活動が多かったことや、事前に班分けを行ったことが参加者の自主性や自由度に影響を与え、それが要因となったとも考えられる。

サマーを除き、共通の傾向として「自己対応」、「状況対応」が有意に向上していることから、実施したプログラムの中で好影響を与えている共通点を見つけること、逆に「対人対応」に好影響を与えることができるプログラムの検討も必要課題であるといえる。

V. 結論

1. 本稿の結果

本稿では、情動知能に着目し、「リフレッシュ・キャンプ」が被災地児童の現状の把握ならびに心理面に与える影響の検証を主たる目的として、皆川ら⁽¹¹⁾が開発した児童用情動知能尺度（EQSC）を用いて調査した。

その結果、以下のことが明らかになった。

- ① 本稿の対象者を全体で見ると、PRE-POS 間の比較にて、すべての項目において統計的に有意に高い値を示しており、得点が向上したことから、「リフレッシュ・キャンプ」が情動知能の向上に影響を及ぼす可能性が示唆された。
- ② 「自己対応」、「状況対応」において下位因子ともに平均値の上昇率が高くなる傾向が見られた。
- ③ 各事業の比較から情動知能の得点変化と居住地域、男女による関係性が示唆された。

以上の結果から、「リフレッシュ・キャンプ」によって、参加者の情動知能に影響を及ぼす可能性とともに、実施時期、居住地域、学年別によって異なる変容が見られたと考えられる。これより、本稿では実験群と統計群、被災地以外の児童との比較ができていないため、確証を得られる結果ではないが、「リフレッシュ・キャンプ」を経験することによって情動知能が高くなる傾向が示されている。

2. 今後の課題

本稿の結果、今後の課題として以下のようなことが挙げられる。

- ① 「リフレッシュ・キャンプ」の参加者（実験群）とそれに参加しない同質の集団（統制群）、それに加え、被災地以外の児童を対象に、同時期、同回数の児童用情動知能尺度（EQSC）の測定を行い、比較・検討する必要がある。
- ② 情動知能の測定のみならず、ストレスチェック等、他の調査も同時に行い、その相関関係・効果を明らかにする必要がある。
- ③ 静的な活動や動的な活動を大別するとともに、自由記述アンケートの内容を精査したうえで、プログラムの中で情動知能に好影響を与えている共通点を見つけ、その比較検討を行う必要がある。
- ④ 実施時期や居住地域、男女別の多重比較を行い、その関係性を明確にする必要がある。

3. 今後の展望

被災地域の心の健康について教育的配慮を必要とする子供へのケアは未曾有の震災から3年が経過した今日も取り組むべき課題であり、「リフレッシュ・キャンプ」のように心身のリフレッシュを図ることをねらいとした体験活動を行うことは、こうした教育課題を解決する有効な手段になると考えられ、今後さらに研究を深めていく必要がある。特に情動に与える発達特性と活動内容の関係性や有効性を明らかにすることで今日的な重要課題に応えることができると考えられる。

また、震災から3年が経過した今日も、温かい食事や柔らかな寝具、あるいは静かで落ち着ける居場所を提供するといった常識的な援助⁽¹⁴⁾は大きなニーズのひとつである。今後、当所のみならず学校や家庭、関係機関と連携を図りながら、安全・安心な環境を提供するとともに子供たち自身が「心の回復力」⁽¹⁵⁾を高め、問題を乗り越えていくきっかけを与えられる事業展開に長期的・継続的に取り組んでいくことが、子供の心の回復や健全な成長を支えていくためにより必要になると考えられる。

引用文献、参考文献、注

- (1) 国立青少年教育振興機構、「リフレッシュ・キャンプ報告書」、2011、<http://www.niye.go.jp/files/items/950/File/rifuteho.pdf>
- (2) 宮城県震災復興・企画部統計課、「平成25年度学校保健統計調査速報」、2013、p. 5
- (3) 宮城県教育委員会、「震災後における子どもの心のケアのために」、2013、p. 1
- (4) 加藤寛・最相葉月、「心のケア—阪神・淡路大震災から東北へ」、初版、講談社、2011、pp. 165-166
- (5) 馬殿禮子、「復興10年総括検証・提言報告 第3編 分野別検証 【2】社会・文化分野 検証テ

- ーマ『被災児童生徒の心のケア』、2005、p.105、<http://web.pref.hyogo.jp/wd33/documents/000039114.pdf>
- (6) 阿部利恵、「あすの教育 スクールカウンセラーの阿部利恵さんに聞く 震災、学校だからできることー埼玉からー」、初版、内外教育、2011、p.3
- (7) Salovey, P. & Mayer, J.D, “Emotional intelligence”, *Imagination, Cognition & Personality*, 9th, 1990, pp.185-211.
- (8) 心の知能を測定する指標である。心の知能とは、自己や他者の感情を知覚し、また自分の感情をコントロールする知能を指す。
- (9) パーズレイ、J.、「アースワークの地平ー環境芸術から都市空間までー」、初版、三谷徹訳、鹿島出版会、1993
- (10) アース・ワーク、アース・アートとも呼ばれる 1960 年代末のアメリカで発達した、自然を直接の制作素材とする表現様式。
- (11) 皆川直凡・片瀬力丸・大竹恵子・島井哲史、「児童用情動知能尺度の開発とその信頼性・妥当性の検討」、鳴門教育大学研究紀要、第 25 巻、2010、pp.31-37
- (12) ゴールマン、D.、「EQー心の知能指数」、21 版、土屋京子訳、講談社、1996
- (13) 内山喜久雄・島井哲志・宇津木成介・大竹恵子、「EQS マニュアル」、7 版、実務教育出版、2001
- (14) 黒木俊秀、「東日本大震災ー支援をつなぐ・命の絆 第 1 回 大震災後のメンタルヘルスと心のケア」、教育と医学、第 59 巻第 5 号、2011、pp.46
- (15) 前川あさ美、『心の回復力』みんな持ってる！ー被災後の心のケアを考える（上）ー」、初版、内外教育、2011、p.3